

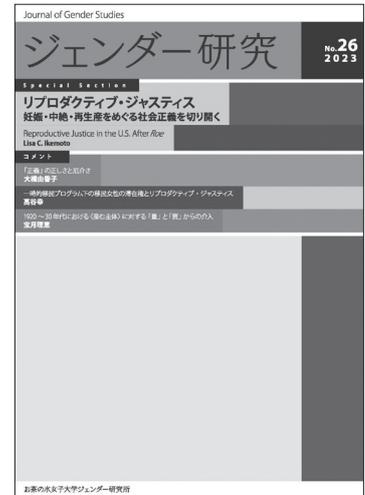
6.

学術成果の発信

- 1) 学術雑誌『ジェンダー研究』
- 2) プロジェクト報告書
IGS Project Series

1) 『ジェンダー研究』

『ジェンダー研究』は本研究所が編集・発行している査読付きの国際学術雑誌で、特集論文、特別寄稿論文、投稿論文、書評から構成される。巻頭に掲載される特集論文はその年に特に注目されたジェンダー関連のテーマについて世界第1級のジェンダー学研究者が執筆し、外部評価を得た論文で組まれており、学術研究としての寄与も大きい。特別寄稿論文は、編集部によるオリジナル企画として、学際的・国際的なジェンダー研究の成果を世に問う論文を掲載している。投稿論文は、国内外から投稿された日本語もしくは英語の論文で、国際的に活躍する研究者による外部審査を経て採用された質の高い論文である。書評も近年ジェンダー関連分野で注目された著書をジェンダー研究および隣接分野の研究者が評しており、最新のジェンダー研究の動向を示すものである。



『ジェンダー研究』26号（2023年7月刊行）概要

特集「リプロダクティブ・ジャスティス：妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く」

『ジェンダー研究』26号では、「リプロダクティブ・ジャスティス：妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く」を特集した。本特集は、2022年12月に開催したIGS国際シンポジウムでの議論を引継ぎ、人間の性と生殖、再生産にかかわる諸活動を取りまくジェンダー、民族、階級、障害、セクシュアリティなどが交差する構造的不平等について、米国と日本の文脈において、多様な研究領域から検討するものである。

カリフォルニア大学デービス校法学部マーティン・ルーサー・キング Jr. 教授 Lisa C. Ikemoto 氏の研究論文「Reproductive Justice in the U.S. After Roe」は、米国の社会運動の文脈において、リプロダクティブ・ジャスティスという概念が、いかにリプロダクティブ・ライツ / ヘルスという先行する概念の限界を超えようとしながらそれらと相互補完的な関係において発展してきたのかを検討するものである。妊娠中絶の権利を認めた1970年代の「ロー対ウェイド判決」および「ケーシー判決」を覆すことになった2022年6月最高裁におけるドブズ判決が示唆することについて分析を行ったうえで、中絶の権利を制限する州法の拡大やキャパシティ不足といった課題に直面する中で、リプロダクティブ・ジャスティスの運動がインクルーシブで公正な社会をつくるという長期的目標に向けてどのように貢献しうるかを論じている。なお、この重要な論考に日本語でもアクセスできるよう、日本語訳をIGSプロジェクトシリーズとしてあわせてオンライン発行した。

また本特集には、シンポジウムでコメンテーターとして登壇した大橋由香子氏、高谷幸氏、宝月理恵氏によるコメントをあわせて掲載した。大橋由香子氏の『『正義』の正しさと厄介さ』は、リプロダクティブ・ライツ / ジャスティス概念を日本語に置き換える困難さについての考察を通して、日本の社会運動の課題を指摘する。高谷幸氏の「一時的移民プログラム下の移民女性の滞在権とリプロダクティブ・ジャスティス」は、外国人技能実習生の妊娠・出産をめぐる、誰が産み育てることを奨励され / 阻ま

れるのかというリプロダクティブ・ジャスティスの境界の作動に注意を促す。宝月理恵氏の「1920～30年代における〈産む主体〉に対する「量」と「質」からの介入」は日本近世・近代における人口管理政策を概観し、社会規範と国家管理の下で〈産む主体〉の自己決定が行使されることを指摘している。これら異なる視角からのコメントをあわせて掲載することによって、生殖をめぐる政治の複合的な権力関係に切り込んでいくためにリプロダクティブ・ジャスティスの概念を用いていく意義を提示しうる特集になった。

投稿論文のセクションでは、厳正な審査を通過した4本の論考を掲載した。また書評セクションでは、近年に刊行されたジェンダー・フェミニズム関連書籍の中から17冊を取り上げ、洪賢秀、熱田敬子、永井萌子、齋藤剛、佐野麻由子、葛原千景、梁英聖、佐喜真彩、原口寛子、佐藤直子、岡本優加子、王嘉若、山田秀頌、澤田佳世、久島桃代、中村桃子、中村雪子の各氏による書評を掲載した。

今号も多彩な執筆陣によって最先端のジェンダー研究の知見が提供される1冊となった。

■『ジェンダー研究』26号（2023年7月刊行）編集委員会

編集委員長

申 琪榮 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

編集委員

天野 知香 お茶の水女子大学基幹研究院人文科学系
水野 勲 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
森 義仁 お茶の水女子大学基幹研究院自然・応用科学系
石丸 径一郎 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
大橋 史恵 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
倉光 ミナ子 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系
脇田 彩 お茶の水女子大学基幹研究院人間科学系

学外編集委員

三浦 まり 上智大学法学部
金井 郁 埼玉大学経済学部
北原 恵 大阪大学文学研究科
板井 広明 専修大学経済学部
平野 恵子 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院
仙波 由加里 一般社団法人ドナーリンク・ジャパン
Jan Bardsley ノースカロライナ大学
Karen Ann Shire デュースブルグ・エッセン大学

編集事務局

本山 央子 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
嶽本 新奈 お茶の水女子大学ジェンダー研究所
黒岩 漢 お茶の水女子大学ジェンダー研究所

『ジェンダー研究』26号(2023年7月刊行)目次

巻頭言 申琪榮

特集：リプロダクティブ・ジャスティス——妊娠・中絶・再生産をめぐる社会正義を切り開く

研究論文

Reproductive Justice in the U.S. After *Roe*..... Lisa C. Ikemoto

コメント

「正義」の正しさと厄介さ.....大橋由香子

一時的移民プログラム下の移民女性の滞在権とリプロダクティブ・ジャスティス.....高谷幸

1920~30年代における〈産む主体〉に対する「量」と「質」からの介入.....宝月理恵

投稿論文

フェミニスト社会科学の科学性と政治性——フェミニスト認識論の統合的理解に即して.....小野寺研太

フェミニズム理論における連合・連帯の規範的構想

——ナンシー・フレイザーとアイリス・マリオン・ヤングの議論から.....山岸大樹

Influence of Mothers on Occupational Expectations of Female University Students in Japan:

A Comparison with the UK..... Kaori Miyamoto

「拒食症のドラマ」の精神分析

——スティーヴン・レヴェンクロン『鏡の中の少女』における身体イメージの歪み、眼差し、欲望.....大木龍之介

書評

柘植あづみ著, みすず書房

『生殖技術と親になること 不妊治療と出生前検査がもたらす葛藤』.....洪賢秀

小浜正子・板橋暁子編, 京都大学学術出版会

『東アジアの家族とセクシュアリティ 規範と逸脱』.....熱田敬子

工藤晴子著, 明石書店

『難民とセクシュアリティ アメリカにおける性的マイノリティの包摂と排除』.....永井萌子

鳥山純子著, 春風社

『「私らしさ」の民族誌 現代エジプトの女性、格差、欲望』.....齋藤剛

杉田映理/新本万里子編, 世界思想社

『月経の人類学 女子生徒の「生理」と開発支援』.....佐野麻由子

ショーン・フェイ著, 高井ゆと里訳, 明石書店

『トランスジェンダー問題 議論は正義のために』.....葛原千景

キャスリーン・M・ブリー著, 鈴木彩加訳, 人文書院

『レイシズム運動を理解する 理論、方法、調査』.....梁英聖

玉城福子著, 人文書院

『沖縄とセクシュアリティの社会学 ポストコロニアル・フェミニズムから問い直す沖縄戦・米軍基地・観光』.....佐喜真彩

新潟県立近代美術館/国立国際美術館/東京都現代美術館編, 河出書房新社

『Viva Video! 久保田成子』.....原口寛子

禿あや美著, ミネルヴァ書房

『雇用形態間格差の制度分析 ジェンダー視角からの分業と秩序の形成史』.....佐藤直子

レスリー・カーン著, 東辻賢治郎訳, 晶文社

『フェミニスト・シティ』.....岡本優加子

池田弘乃著, ナカニシヤ出版

『ケアへの法哲学 フェミニズム法理論との対話』.....王嘉若

藤高和輝著, 青土社

『〈トラブル〉としてのフェミニズム 「とり乱させない抑圧」に抗して』.....山田秀頌

大野恵理著, 有信堂

『「外国人嫁」の国際社会学 「定住」概念を問い直す』.....澤田佳世

安井真奈美著, 平凡社

『狙われた身体 病と妖怪とジェンダー』.....久島桃代

Rika Saito 著, Peter Lang

The Language of Feminine Duty: Articulating Gender, Culture, and Covert Policy in Modern Japan.....中村桃子

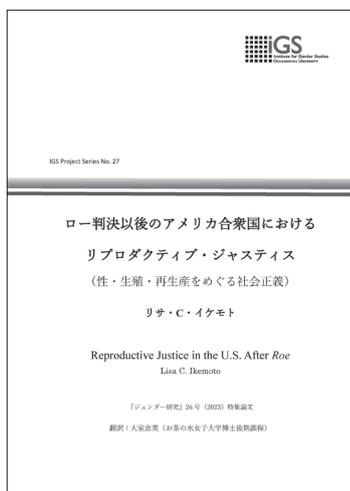
Nancy Folbre 著, Verso

The Rise and Decline of Patriarchal Systems: An Intersectional Political Economy.....中村雪子

編集方針・投稿規定

2) プロジェクト報告書 IGS Project Series による成果刊行

ジェンダー研究所では、開催したシンポジウムやセミナーでの講演・報告内容の記録や、特別招聘教授プロジェクトの成果をまとめた報告書として、IGS Project Series を刊行している。



2023 年度は、IGS Project Series No. 27 『ロー判決以後のアメリカ合衆国におけるリプロダクティブ・ジャスティス (性・生殖・再生産をめぐる社会正義)』を IGS の web サイトにて公開した。これは『ジェンダー研究』第 26 号特集論文「Reproductive Justice in the U.S. After Roe」(本報告書 60 頁参照)を日本語翻訳したものである。本論考の学術的ならびに社会的重要性に鑑み、広く多くの方々に読んでいただけるよう、あえて英語論文を日本語に翻訳して web で一般に公開するものである。